沖縄県国頭郡伊江村西江上方言における身体感覚を表すオノマトペ

生塩睦子

はじめに

1．調査対象地：伊江島は沖縄本島北部の本部(もとぶ)半島から北西約９km離れたところにある．島は東西約8.4 km，南北３km．島の東部の中央には城山（172m）があり，その山麓から南海岸にかけて集落がひらけている．一島で一村（伊江村）をなしており，８か字からなる．

生業は主として農業（さとうきび・葉たばこ・落花生など）．

本部半島渡久地港から伊江島までカーフェリーが就航（一日４～５往復．所要時間30分）．村内には，集落を一周するバスが運行．

人口5,620人，戸数1,857人（1990年12月現在）．

2．調査年月日：1991年８月23日・24日

3．話者：山城文男　1911年（明治44年）８月生　・　79歳

沖縄県国頭郡伊江村西江上在住

4．調査場所：伊江村教育委員会老人会室

5．調査方法：面接質問

（注）方言表記はカタカナを用いたが，語頭の無気音音節だけはひらかなを用いた．

こ〔ko〕・　か〔ka〕・　ゆ〔ʔju〕・　め〔ʔme〕・　に〔ʔna〕

単語のアクセントは ˥（下り核）だけで示した．

I　全身の感覚

1－1．快不快

サーザー˥トゥ＜さっぱりと．すっきりと．せいせいと．身体感覚にも精神状態にもいう＞

アシ˥ー　パタスィ˥ガ　ユー˥フ˥ル　イ˥チャトゥ　サーザ˥ー˥トゥ　ナタン．

＜汗をかいたが，風呂に入ったからさっぱりとした．＞

ニ˥ーニシ　タチ　チム　サーザ˥ー˥トゥ　キ˥ー　パダム˥チ˥　ヤン˥ヤ˥ー．

＜新北風が吹いてくると心がせいせいとして，いい心地ですねえ．＞

＊パダムチ˥＜肌持ち．肌ぐあい．肌にふれるこころよい感じをいう＞

ツォンゾー˥トゥ＜すっかりさっぱりと．きれいにすっきりと．一時的な不快な状態

が解消されたときに使われる．例えば我慢していた用足しが終わったあとなど．＞

1－2．寒さ

ガタナイ┐・ガタガタ┐＜がたがた．ぶるぶる．「ガタガタ」と「ガタナイ」は同意＞

ピー┌サ┐ヌ　ガタナ┌イ　プル┐タン．＜寒くってがたがた震えた．＞

＊「がたがた震えた」の意で，「キ┐ープクギ　タ┌チ　プル┐タン（鳥肌が立って震えた）」の表現も使われる．

＊当方言には共通語「ぞくぞく・すうすう」にあたる語はない．「背中がすうすうする」は「フシ┐ナニ　ティジュル┌ー┐サヌ（背中が冷たい）」．

1－3．熱さ

ンバンバ┐＜ぽっかぽっか．かっか＞

フガ┌ザ┐キ　ヌダ┌トゥ　ドゥ┐ー　ンバン┌バ　シュ┐ン．

＜卵酒を飲んだから，体がかっかする．＞

＊サーメカシュ┐ン＜体がかぁっと熱くなる＞

＊プミチュ┐ン＜蒸し蒸ししして暑苦しく体がほてる＞

Ⅱ　皮膚の感覚

バッタ┐＜べったり．べたべた＞

チュ┐ーヤ　ア┌ツィ┐サヌ　アスィ┌シ　フシ┐ナニ　バッ┌タ┐　ナタン．

＜今日は暑くて暑くて，汗で背中がべったりぬれた．＞

ムジャムジャ┐＜もぞもぞ．むずむず＞

プルプル┐＜かさかさ．がさがさ＞

ナンドナンド┐＜つるつる．すべすべ．「ナンドー┐サ」は「すべっこい」＞

＊ティーラチヤニ┐＜ひりひり痛み．火傷やひどい日焼けのときの痛みにいう＞

＊ハーパダヤニ┐＜ひりひり痛み．「ティーラチヤニ」よりやや軽い痛み＞

＊アツィンバーミチヤニ┐＜ひりひり痛み．「ハーパダヤニ」とだいたい同じ痛み＞

＊ムクムクヤニ┐＜（化膿する前の）ずきずき痛み＞

＊ティシュティシュヤニ┐＜（擦り傷などの）ちくちく痛み＞

Ⅲ　頭部の感覚

3－1．頭

＊当方言には，「（頭が）がんがんする・くらくらする・ずきずきする」にあたる語はない．

＊ワリ┐ヤニ＜頭ががんがん痛むこと．頭の割れるような痛み＞

＊パチ┐リヤニ＜頭ががんがん痛むこと．「ワリヤニ」よりやや軽い痛み＞

＊ウチ┐ヤニ＜頭がずきずき痛むこと．頭のしんが痛む感じ＞

3－2．顔面

＊「恥ずかしくて顔がかっかする」の「顔がかっかする」は，当方言では「ツァー
「ラ　ティ「ー」　イジユルグ「ー」トゥ　アタン（顔から火が出るようだった）」
が一般的な表現．

3－3．目

チラチラ」＜ちかちか＞

アラアラ」＜ごろごろ．目の中に異物が入って不快な状態をいう＞

ミンチム」ンヌ　イ「チ　ミ「ー　アラア「ラ」　シュ」ン．

＜小さいゴミが入って目がごろごろする．＞

ジンジン」＜じんじん．眼病の前兆の，痛みを伴った不快な状態＞

＊当方言には「煙くて目がしょぼしょぼする」の「しょぼしょぼ」にあたる語はない．

3－4．耳

ガンナイ」＜がんがんと．がーんと＞

ハ」ー　ニニンチャ「ー」サヌ．にャー「マ　ニニンナ」ハナイ　ガンナ「イ
シュ」ッツァ．＜ああうるさい．まだ耳の中でがんがんしてるよ．＞

ジャカジャカ」＜じゅくじゅく．耳の中が腫れ，汁が出て不快な状態＞

ゼーナイ」＜じくじく．「ジャカジャカ」より程度の軽い状態＞

パラパラ」＜ごそごそ．耳に虫や蟻などがはいって動くときの感じ＞

3－5．鼻

ムジャムジャ」＜むずむず．鼻の中が何かで痒い状態＞

ムジュムジュ」＜むずむず．くしゃみ前や風邪ひきのとき，鼻の中が不快な状態＞

ツォンツォン」＜ぐちゅぐちゅ．風邪をひいて鼻汁が出やすくなっている状態＞

＊当方言には「わさびをいれすぎて鼻がつーんとする」の「つーん」にあたる語はない．「鼻がつーんとする」は，「パナ」ンナハ　こーリ「ユ」ルグトゥ　アタン
＜鼻の中が壊れるようだった＞」が一般的表現．

3－6．口

（口全体）

ムチャムチャ」・ムチャナイ」＜ねちゃねちゃ．ねばねば＞

＊梅干しを丸ごと食べたあとの口の状態は，「ニニンチャプ「ー」ラ　ツィーシャ
ユダ」イ　ダラー「コ　シ」ー＜こめかみからすっぱいよだれがだらーっと出て＞」
のようにいう．

（歯）

ガタガタ」＜がちがち＞

カチカチ」＜かちかち＞

ピ「ー」サヌ　パ「ー　カチカ「チ　シュ」ータン．

＜寒くて寒くて歯がかちかちなってた．＞

ティシュティシュ˥＜（虫歯で）ずきずき＞

（舌）

＊「辛い物を食べたら舌がひりひりする」の「ひりひりする」には，「ティ˥ーラチュン＜ひりひり痛む＞」を使う．

3－7．喉

ヨゴヨゴ˥＜いがいが．生パインを食べた後の，痛みの混じった不快な状態＞

グスグス˥＜（息苦しくて）ぜえぜえ＞

フィーフィ˥＜（息苦しくて）ひーひー＞

＊当方言には「喉が乾いてからからだ」の「からから」にあたる語はない．

Ⅳ　胴体

4－1．肩

＊当方言には「肩が凝ってこりこりする」の「こりこり」にあたる語はない．

4－2．胸

トントン˥＜どきんどきん．とくんとくん．恐ろしいめにあったときの胸の高鳴りをいう＞

ア˩ギ˥ジャビヨ˥ー　ウトゥル˩ー˥シャ　アタスィ˩エ˥ー．　にャン˥マ　ニ˥ートン˩トン　シュ˥ン．＜あー　恐ろしかったよー．今胸がどきんどきんしてる＞

ドンドン˥＜どきんどきん．とっくんとっくん．「トントン」とだいたい同じ意か，やや強い状態をいう＞

タトゥタトゥ˥＜どきどき．心配で胸さわぎする状態＞

＊ド˥ンメカシュン＜（心配で胸が）どきっとする＞

＊ザク˥ミチュン＜（気分が悪くて胸が）どきどきする．はげしく動悸をうつ＞

＊「（悲しくて）胸がきゅっとしめつけられる」の意は，当方言では「チム˩ーティーラ˩リ˥ルグー˥トゥ　アタン（心臓を手で揉まれるようだった）」が一般的．

＊「悪いものを食べたようで胸がむかむかする」の「むかむか」にあたる語は，当方言にはない．

4－3．腹

（空腹）

グーグ˥＜ぐうぐう＞

ヤ˩ー˥シャヌ　˩ワタヌム˥シ　グー˩グ　シュ˥ーセー．

＜ひもじくってひもじくって，腹の虫がぐうぐうないてるよ．＞

（満腹）

ポンポン˥＜（水分を多くとり過ぎて腹が）たぷたぷ＞

ガブガブ˥＜（多く食べ過ぎて腹が）ぱんぱん＞

（腹下し前）

ガラガラ¬＜ごろごろ．何か変なものを食べたあと，腹の不快な状態＞

か¬ータル 「ゆ¬ーヌ ワッ「ツァ¬ アタラ．ワタ「ー ガラガ「ラ シ¬ー．

＜食べた魚が悪かったんだろうか．腹がごろごろしてて（調子が悪い）．＞

4－4．胃

＊ハミラリユ¬ン＜（胃が）きりきり痛む．胃がつきあげられるように痛むこと＞

＊「ストレスがたまって胃がしくしく痛む」の「しくしく」にあたる語は，同方言にはない．

4－5．尻

V 手足の感覚

（手）

ガタガタ¬＜ぶるぶる＞

ティ「ー ガタガ「タ¬ シー プル¬ティ め「ー¬シ スィカニュー¬サン．

＜手ががたがたして震えて箸が摑めない．＞

ガチガチ¬＜（アルコール中毒患者の手が）ぶるぶる＞

（足）

ギトゥナイ¬＜がくがく＞

ドゥ「ク アイ¬チ 「スィン¬スィ ギトゥナ「イ¬ シー．

＜あんまり歩き過ぎて膝ががくがくする．＞

ガチガチ¬＜（足を使い過ぎて）がくがく＞

VI 関節の感覚

ガタガタ¬＜ごきごき．ぐきぐき＞

クディ¬ブニヌ ガタガ「タ¬ シー ナユン．＜首骨がごきごきなる．＞

グトゥグトゥ¬＜ごきごき．ぐきぐき．寝違えたり首をかたよった使いかたをしたりして，首が前後左右に自然に動かない状態をいう＞

ニン¬ジチジェーラチ ク「ディ¬ヌ グトゥグ「トゥ¬ シュン．

＜寝違えして首がぐきぐきする．＞

まとめ

身体感覚を表す象徴詞は，伊江島方言においては語彙量も少なく，使用頻度も少ないように思われる．

これは，「ティ¬ーラチュン」のように，共通語では「ひりひり痛む」（象徴詞＋動詞）二語で表される意味内容を動詞一語で表すことができること，また，「ド¬ンメカシュン」「サーメカシュ¬ン」のように，象徴詞に接尾語「－メカシュン」がついて動詞一語で表す

ことができることなどにもよる.

象徴詞は，畳語形式によるもの・「 ――― ナイ」形式・「 ―――トゥ」形式の三種がほとんどである．畳語形式の語と「 ――― ナイ」形式の語は最終音節が卓立するアクセントで，「 ――― トゥ」形式の語は，「トゥ」の直前音が長音の場合その長音が卓立するアクセントである.

(おしおむつこ　広島経済大学)